



共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

投与量



事例

【事例の詳細】

平素より当薬局を利用している患者の処方箋を応需した。前回まではBasalインスリン製剤としてランタスXR注ソロスター 1日1回が処方されていたが、今回からアウिकリ注フレックスタッチ 週1回に処方に変更された。処方箋には、アウिकリ注フレックスタッチ100単位を週1回で継続投与するよう記載されていた。これは、ランタスXR注ソロスターの投与量の7倍に相当する単位数をさらに1.5倍にした量であったため、初回投与量としては適切であったが、2回目以降に投与する維持量としては過量と考え、疑義照会を行った。その結果、2回目以降は70単位へ用量が変更となった。

【推定される要因】

連日投与のBasalインスリン製剤からアウिकリ注フレックスタッチに切り替える際の用量について、処方医が勘違いしていた可能性がある。

【薬局での取り組み】

アウिकリ注フレックスタッチの用法および用量に関する注意点を理解し、薬局内に周知する。



その他の情報

アウिकリ注フレックスタッチ総量300単位/総量700単位の添付文書 2026年4月改訂（第5版）
（一部抜粋）

7.用法及び用量に関連する注意

7.4 連日投与のBasalインスリン製剤から本剤に変更する場合は、以下を参考に本剤の投与を開始し、その後の患者の状態に応じて用量を増減するなど、本剤の作用特性を考慮の上で慎重に行うこと。

7.4.1 本剤を1週間に1回投与する投与量は、それまで連日投与していたBasalインスリンの1日総投与量の7倍に相当する単位数を目安とすること。

7.4.2 連日投与のBasalインスリン製剤から本剤への切り替え時に血糖値が上昇するおそれがある。血糖値の上昇を防ぐため、2型糖尿病患者においては、初回投与時のみ、本剤の投与量を7.4.1項で示した単位数を1.5倍に増量して投与することが推奨されるが、患者の血糖コントロールと低血糖のリスクのバランスを考慮して増量の必要性を慎重に判断すること。

1型糖尿病患者においては、初回投与時のみ、原則として本剤の投与量を7.4.1項で示した単位数を1.5倍に増量して投与すること。ただし、患者の血糖コントロール及び低血糖の発現リスクを踏まえ、初回投与量の増量の必要性を慎重に判断すること。



事例のポイント

- アウिकリ注フレックスタッチは国内初の週1回投与の持効型溶解インスリンアナログ注射液であり、2025年1月に総量300単位の製品、12月に総量700単位の製品が販売開始された。
- 連日投与のBasalインスリン製剤からアウिकリ注フレックスタッチへ切り替える場合、それまで投与していたBasalインスリン製剤の1日総投与量の7倍量を維持量の目安とするが、切り替え時は血糖値が上昇するおそれがあるため、初回時のみ維持量の1.5倍に増量することが推奨されている。処方監査をする際は、初回量と維持量がともに適切であるか、患者の状態や低血糖リスクを踏まえて慎重に判断する必要がある。
- 本事業には、アウिकリ注フレックスタッチに関して、初回量や維持量の処方間違いのほか、説明不足により患者が投与間隔や用量を誤って使用した事例が報告されている。
- アウिकリ注フレックスタッチが処方された際に適切に処方監査を行えるよう、「アウिकリ注投与ガイド」^{*1}などに記載された内容を薬局で共有しておくこと。さらに、患者への説明時には、「アウिकリ注をお使いになる方へ」^{*2}などを用いて患者が正しく使用方法を理解できるよう支援する必要がある。

<参考>※1アウिकリ注投与ガイド

※2アウिकリ注をお使いになる方へ

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 アウिकリ注製品情報（参照2026年4月16日）



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。